

## 令和5年度実施状況調査報告書（スポーツ振興基金助成）

### ■調査概要

助成団体	公益社団法人日本カヌー連盟
活動細目名	競技会開催（競技）
活動名	2023 カヌースラロームアジア選手権大会・アジア大陸予選会/第46回 NHK 杯全日本カヌースラローム競技大会
助成金額	10,000,000 円

### ■調査内容

令和5年度スポーツ振興基金競技会開催を受け、「2023 カヌースラロームアジア選手権大会・アジア大陸予選会/第46回 NHK 杯全日本カヌースラローム競技大会」を開催した公益社団法人日本カヌー連盟の調査を実施しました。

10月27日（金）から10月29日（日）の3日間に渡り開催された本大会は、2019年に施設が完成し東京2020大会で使用されたカヌースラロームセンター競技場で行われ、世界のトップ選手約100名が参加しました。調査当日は、男女2種目ずつのカナディアンカヌー、スラロームカヤックの計4種目の競技が実施され、アジアからは中国、イラン、カザフスタン、ヨーロッパからはフランス、チェコ、スロバキアなど多くの国々の選手が参加していました。

本大会は、東京2020大会で使用したカヌースラロームセンター競技場をレガシーとして繋げることも目標として同競技場にて開催されました。大会の審判員は、国内だけでなく海外からも多く来日し、都内にある各国の大使館からの応援団も見られるなど、これぞ国際競技大会という雰囲気の中、選手は張り詰めた表情で自身のレースに集中していました。

コース内にはVARが設置され、選手をビデオジャッジするだけでなく、レース後は選手自身がスマートフォンに動画を取り込んで試合の様子を振り返ることができる仕組みになっていたり、施設の会議室を使って各国のスタッフが試合のレビュー映像をチェックしていたりと、この競技場で開催出来たメリットを最大限に活用し、参加選手やスタッフにとって競技に集中しやすい環境が整備されていました。レースの様子はYouTubeの実況を交えながらの生配信やNHKBSで放送され、世界中でオンライン観戦できる環境を整備する事により、競技カヌーの魅力を発信していました。

今大会が日本で、そして東京2020大会の競技会場にもなったカヌースラロームセンター競技場において開催されたことは、参加したトップレベルの競技者・スタッフのみならず、一般の愛好家や興味を持ち始めたばかりの方にとっても、非常に意義の大きい大会であったと考えます。今後も継続して同様の大会を実施することで、国際的な競技力の向上と裾野の拡大に助成金が活用されることを期待しています。

（令和5年10月28日往査）

(写真) カヌーアジア選手権の様子 (※写真提供：公益社団法人日本カヌー連盟)

